

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	太陽きやべつ		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 20日		～ 令和7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 1日		～ 令和7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	中学生・高校生のみが利用するデイのため、クラブ活動のような雰囲気もあり、集団療育に適している。 (全体で取り組むプログラムが行いやすい)	お友だちとたくさんおでかけしたり、お友だちが好きなことを皆で取り組んでみたり、中学生・高校生らしい活動を意識している。(先輩・後輩を意識するなど)	就労、社会参画に向けて、自己決定・自己選択をする機会を数多く設け、推進する環境を整備していく。 (スタッフの意識向上、機会の創生、ツールの整備等)
2	同じ法人内で、児童発達支援と小学生のみが利用される放課後等デイサービス(多機能型)があり、その連携の元、弊所も利用されるケースが多く、連続した支援が行える。	継続利用される方の利用前に見学に行き、事前にデイ中の様子を確認したり、児童発達支援管理責任者や支援員同士で、日々意見交換や情報共有をしようとしている。 (個人情報保護にも気を付けている)	より良い連続した支援のため、両事業所で共に研修を行うなど、より連携を意識した取り組みを工夫したい。
3	高校生くらいになると、気分やこだわりが落ち着いてくるお子さまも多く、一つ上の段階を意識した個別療育や課題に取り組む機会をつくることができている。 (個人差有り)	保護者さまにも活動内容や個別課題のニーズを聞き取り、それを反映させながら、子どもたちの様子、ニーズに合わせた取り組みを工夫している。また、中でも、就労を意識し、机上での取り組みを重視している。	より難しい内容をクリアできることを目指すことだけでなく、その子どもにとって、何が本当に必要なかを見極めた上で課題、目標設定を精査していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	経験豊富な職員もいるが、専門的な知識や経験(主に子育て、発達について)が全体的に不足していると感じる。	毎月1回以上の研修は行っているが、パート職員まで裾野を広げることができていなかったり、入社時や役職昇格時の研修が十分でない。	研修の機会をパート職員にも広げ、積極的に研修や勉強会に参加する風土を育むようにしたい。
2	職員に意識・知識の差があり、コミュニケーションや情報共有がうまくできていないと感じる場面がある。	法人内で業務を兼務している職員がいたり、家庭に事情を抱えている職員もいるため、主な会議に全員参加することが難しい。	会議を複数回に分けて開催し、全員参加を目指す。
3	地域連携の不足。 保護者会(きょうだい会)などの開催がなかなかできていない。	コミュニケーション不足。 日々の業務で余裕がない。	積極的に外部機関と連携したり、職員全体に意識を持ってもらえるよう、会議や研修の場でも検討の機会を持つ。